

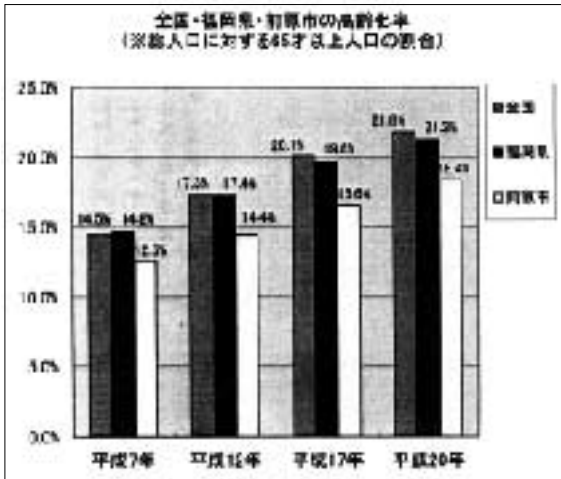
が今でも毎年苗木を植えもみじの種を蒔いている。いわく「ほりあ生きとる間には採れんかもわからんけど、これは私の夢の種を蒔きよんじゃ」と。感動しました。

■■■ 前原だって出来る！ ■■■

豊かな自然と誇れる歴史を持ち、新鮮で安全な農・海産物の生産基地である前原でオンリーワンのまちづくりは出来るのです。高齢化率が全国的に上昇する中前原市は他の都市に比べるとまだ活力がある(高齢化率が低い)と言えます。国は「農商工連携推進による地域経済活性化」の取り組みをスタートさせました。

一発ホームランを狙っても簡単には出来ません。商工会でも地域ブランド作りが始まりつつあります。農林漁業、商工業、観光が別々に行動するのではなく、地元前原の地域資源をもう一度見直してそれぞれの強みを生かしながら前原のオンリーワンブランドを作り上げることです。夢の種を蒔くという長期計画のもと、町が活性化してこそ個人も恩恵を受けるという「ONE FOR ALL, ALL FOR ONE」の精神で頑張れば必ずよい結果がついてきます。頑張らしましょう！

行政に何かをやってもらうのを待つのではなく、自ら考え行動を起こした事に行政は応援するのです。主体は我々住民です。先に述べた上勝町の葉っぱ事業は28年前に始まりました。一步一步の前進あるのみです。



追記

ふるさと納税(前原市ふるさと応援寄附条例)とは・・・

平成20年4月30日の地方税法改正により、税収減に悩む地方自治体の格差是正を推進するための構想で、住民税の一部を生まれ育った故郷や応援したい自治体に納めることが出来る制度です。納めた金額に対する控除措置や記念品等の特典も付いています。詳しくは7月15日発行の広報まえばるに掲載されます。

前原市外に住む前原出身者に声をかけ協力を依頼しましょう。

元氣な前原・住みたい前原にするために、皆様のご意見、ご要望をお聞かせください。

小島忠義事務所

〒819-1112 福岡県前原市浦志二丁目5-20

TEL(092)322-0155

FAX(092)322-4900

E-mail:kojima-tadayoshi@iwa.bbq.jp

小島忠義の “かけ橋” 議会通信 Vol.7



中国四川大地震発生の影響も収まらない中、今度は岩手・宮城内陸地震の発生です。震度6強という非常に強いものでした。3年前(平成17年3月20日10時53分発生)の福岡西方沖地震を思い起こされた方も多いと思います。私もあの時をはっきりと覚えています。そしてそれにつづく多くの余震には今まで経験したことのない不安を感じたものでした。

世情の方はというと、原油高に端を発し、食料の安全確保とあらゆる物価の高騰又後期高齢者医療制度や年金問題等々。将来を予測すると不安要素だらけのように思われます。

前原市は志摩町、二丈町と次世代へ持続可能で少しでも住みよいまちづくりを目指して合併協議を重ねています。

「糸島市」の誕生は実現するのか？

市民の一部には「合併はもう決まったんじゃないの」と思っておられる方や合併にあまり関心がない方も見受けられます。今後の前原、糸島の発展に大きな意味を持つ合併問題です。現在一市二町の代表者による合併協議会が開かれ、28の協定項目の合意に向けて慎重かつ活発な議論が交わされています。

第10回合併協議会(6月20日開催)の時点で21の協定項目については合意決定されております。

今後「新市基本計画」「合併の期日」「新市の事務所の位置」や「議員定数及び任期の取扱い」といった合併の核心となる項目が審議を経て決定される予定です。

議員定数の24人という案に対しては合意の見通しが立つものの、選挙の方法で一市二町の議員間には考え方の違いがあるようです。在任特例を行使して議員の任期を延ばそうとする意見が一部あるようですが、合併の意義に照らし合わせてみても筋が通らない意見だと思えます。

合併の意義とは、何のために合併するのか再確認の必要があります。

1. 行財政改革の目玉だということです。一市二町とも財政事情は決して芳しくありません。正直なところ今後の対策次第では夕張市の二の舞にならないという保証はないのです。合併により行政システムの効率化を図り経費削減を断行するという大きな狙いがあるのです。